

# 女性の視点 政治に

## 山形で国会議員 県議、市議計3人 講演や意見交換

男女共同参画社会の推進を目指す講演会「山形の未来 女性議員と語る」が27日、山形市の遊学館で開かれた。パネルディスカッションでは国会、県議会、市議会それぞれ活動する3人の女性議員が意見を交わし、女性ならではの視点を政治に生かす重要性を強調した。



パネリストとして

大沼瑞穂参院議員、

大内理加県議、諏訪

洋子山形市議らが出

席。それぞれ政治家

を志した理由、女性

議員の存在意義など

について語った。女

性議員の役割に関

し、諏訪氏は「家庭

で子どもや高齢者と

接する機会が多いの

女性議員の役割など

について発言する女

性議員ら

山形市・遊学館

は男性よりも女性。弱い立場にある人の声を代弁するのが役目」と話した。

大内氏は「どの分野でも男性の視点だけでなく、女性の考えを含めた多様な視点が必要」と強調。大沼氏

は「国会で子育てや介護問題の審議が不十分なのは女性議員が少ないからだと感じる。もっともつと増やさなければならぬ」などと語った。

ウピイ(W・P・I・Y)

の会(天童市、井上みやま代表)が開催し、市民ら約30人が参加した。パネルディスカッションに先立ち、「女性展望」編集長の久保公子さんが基調講演を行った。